

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名 <b>ウィキッド・エンカウンター</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.500</b>	△RG <b>0.052</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：ウィキッド・エンカウンター**

フレアーの幅  インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **5** インチ

番

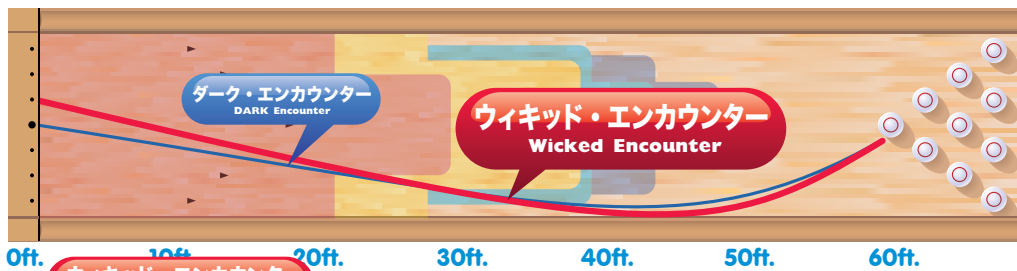
**比較対照ボール：ダーク・エンカウンター**

フレアーの幅  インチ

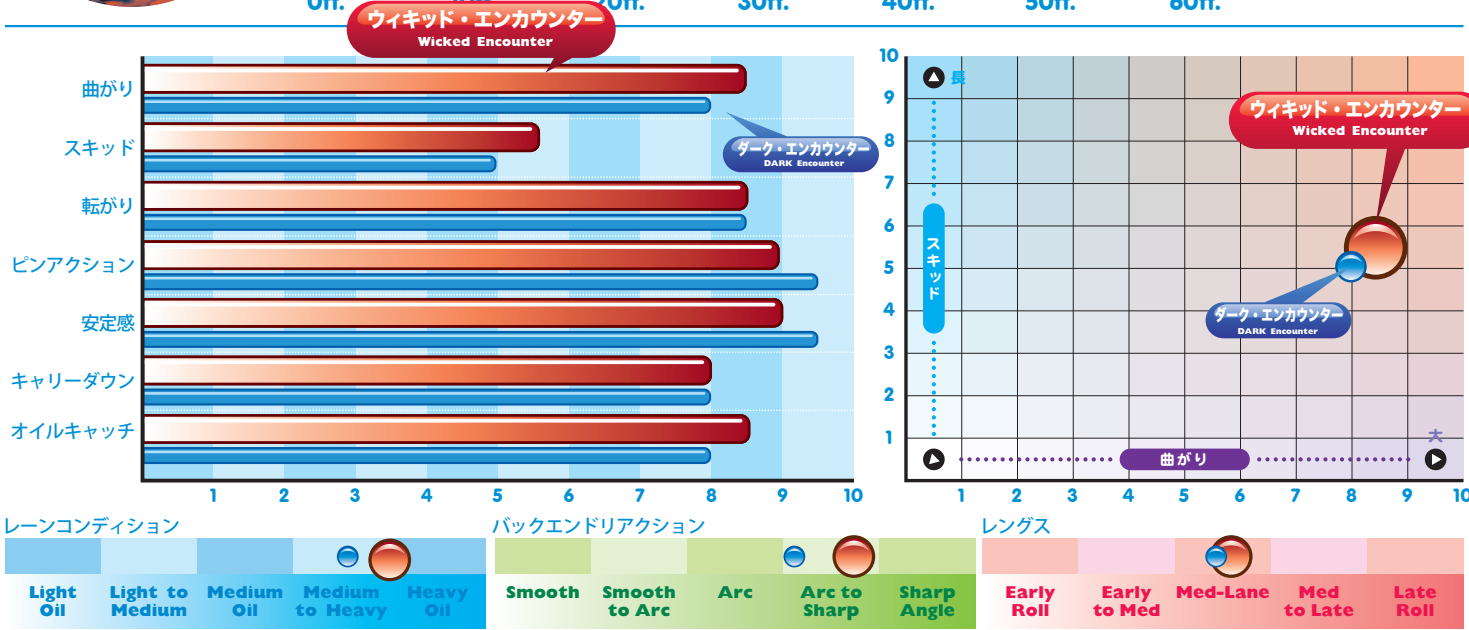
表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

PAPからピンとの距離 **4** インチ

番



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



### ボールの評価

第一印象の「カバーストックの違いだけで全く異なったパフォーマンスを見出されたボール。」  
 私たちは先月発売されたバイオレントイラプションと初代イラプションとのリアクション特性の違いを明確に感じることができました。このWicked Encounterにも同様なことが言え、エンカウンターシリーズに新たな性能が加わりました。  
 先に発売されたエンカウンターとダークエンカウンター双方にみられた共通点は、スキッドの長さは違えど、ミッドエリアから演出される曲り始めの安定感と読みやすいピンヒットまでの軌道でした。今回のこのWicked Encounterは「キャッチと角がでるリアクション」を兼ね備えた、今までのエンカウンターとは全く違ったカテゴリーに分類できるボールとして生まれ変わりました。イメージとしてはミッドエリアまでのオイルの使い方はダークエンカウンターに似ていますが、ブレイクポイントからの向きの変わり方が鋭いため、私はダークエンカウンターよりも中目からラインを取ることができます。またポケットに対しての入射角も取りやすいので、ピンが倒れやすいようにも感じました。  
 今回採用されたカバーストックは初であるElastin8.0。数値的にはダークエンカウンターを上回りますが、手前の厚いオイルに負けない持続的なキャッチと、スキッドを程よく邪魔しない喰いつき感との共存は、バックエンドで角がでるリアクションを演出できるだけのパワー残せるバランスのとれたオイリー系カバーの中では最高峰の仕上がりと言っても過言ではないほどコア・カバー、表面加工まで綿密に考えられたうえ仕上げられていることが伺えます。  
 オイリーなコンディションで先での動きを重視した性能を探している方にはこのWicked Encounterは是非使用して頂き、キャッチと先での動きのバランスの良さを感じていただけたらと思います。

### 特記事項

現代はコアを変えずにカバーだけでリアクション特性そのものを変えてしまえるぐらいケミカルチューンナップが進んでいます。エンカウンターの良さを生かしながら先での動きを強化させたボールをお試しください。